

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、発生の確認と防除対応についてよろしくお願ひします。

記

- 1 情報の内容 **キュウリホモプシス根腐病の発生について**
(病原菌名：*Diaporthe sclerotioides* kesteren)
- 2 発生経過
令和元年 11 月、西条市の施設栽培きゅうり（カボチャ台木）において、萎凋症状を示し、細根が腐敗脱落し、根部表面に黒変部位が認められたことから、キュウリホモプシス根腐病の発生が疑われた（写真 1、2）。このことから、被害根から菌を分離し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、キュウリホモプシス根腐病菌であることが確認された。
本病の発生は、過去には県内の一部地域で発生していたが、近年は目立った発生は確認されていない。
- 3 本病の特徴
 - (1) 病徴
根腐れが進行すると地上部に激しい萎れ症状が発生し、次第に枯死に至る。主な発生時期は果実肥大・収穫開始後である。
萎凋症状の初期には細根の脱落やわずかな褐変が認められるが、症状が進展すると、根表面に病原菌の感染による黒色構造物（偽子座：写真 3、4、疑似微小菌核：写真 5、6）が形成される。
 - (2) 発生生態
 - (ア) 病原菌は糸状菌の一種であり、植物残渣とともに土壌中に残存し伝染源となる。
 - (イ) 土壌中における病原菌は地表下 30cm までに多く分布する。
 - (ウ) 病原菌の生育温度は 24～28℃であるが、発病適温はこれより低温域である。
 - (エ) きゅうり、すいか、メロン、かぼちゃ等のウリ科作物を特異的に侵す。
- 4 防除対策
 - (1) 育苗には無病培土を使用する。
 - (2) 被害株は早期に抜き取り、できるだけ根を残さないように処分する。
 - (3) 地上部に明瞭な萎凋症状が認められない場合でも、早期発見のためには、収穫終了時に根表面の典型的な症状の有無を確認し、症状が認められた場合には土壌消毒等の対策を講じる。
 - (4) 無病圃場への病原菌の侵入防止のため、靴底に付着した土の払落しや発病圃場の作業（耕起、整地等）は最後に行うなど汚染土壌の移動に注意を払う。
 - (5) 本病原菌は熱に比較的弱い（死滅温度・時間：38～40℃・24 時間、60℃・1 時間）ため、夏季高温時に太陽熱土壌消毒を行う。
 - (6) 発生圃場でのクロルピクリンくん蒸剤による土壌消毒はマルチ畦内消毒で行う。なお、使用时には揮散ガスが周辺に漏れることがないよう細心の注意を払う。住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用にあたってはガスによる被害の発生防止に十分配慮する。
- 5 その他
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が作成した本病防除に関する資料が公開されている。

「きゅうりホモプシス根腐病防除マニュアル」

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/004276.html

「ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル」

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/045933.html



写真1 萎凋症状（左側畝で発生）



写真2 発病株の根部



写真3 根部表面の偽子座



写真4 偽子座（拡大）



写真5 根部表面の疑似微小菌核

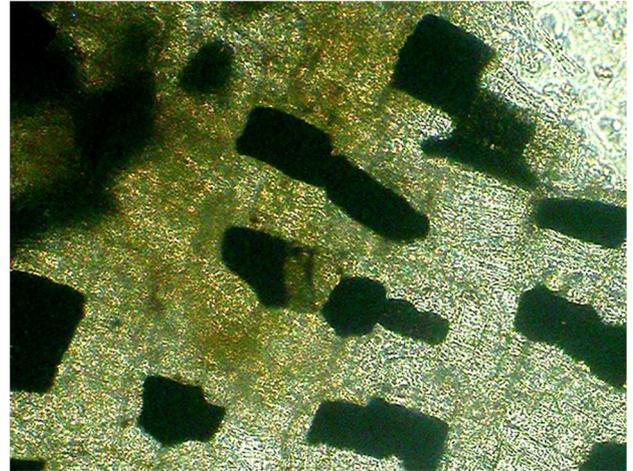


写真6 疑似微小菌核（拡大）